

専門科目

(摂食・嚥下障害コース開講)

<p>【科目名】 摂食・嚥下障害学総論</p>	<p>【担当教員】 井上誠, 辻村恭憲, 真柄仁 [研究室] 非常勤講師室</p>
<p>【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 DBMH 101</p>	<p>[メールアドレス] 井上: inoue@dent.niigata-u.ac.jp 辻村: tsujimura@dent.niigata-u.ac.jp 真柄: jin-m@dent.niigata-u.ac.jp [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 2単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 15コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>本講義は、疾患にもとづく検査と診断から、リハビリテーションにいたるまでの臨床科目というだけでなく、生活弱者を支える栄養支援や環境設定などの幅広い知識を必要とする。十分な事前の学習を必要とするが、不明な点は講義中、講義後に積極的に質問をするなどの対応をしてもらいたい。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>「食べる」ことの重要性を認識し、正常な摂食嚥下機能及びその神経性制御機構を学んだ後、神経機序からみた嚥下障害の理解へとつなげる。顎口腔顔面領域に発生する種々の疾患の病因や病理発生について学ぶとともに、摂食嚥下障害の病因、複雑な構造と機能障害について病態生理学的な理解を深める。さらに、摂食嚥下障害のリハビリテーションとその予後等について知識を深め、臨床応用へ発展させる。また、摂食嚥下障害者の病態生理学的背景を把握するための各種検査の実施及びデータの解釈を行うとともに、臨床で用いられるこれらの検査を使った基礎的研究手法について知る。摂食嚥下機能に関わる基礎、臨床を網羅的に学修することで、一生涯健康に食べるためにはどうしたらよいかということ及びその意義について考えていく。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下機能に関する正常像と障害像について理解を深める。 ・摂食嚥下障害の治療に必要な検査、診断、リハビリテーションの流れを理解する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下機能の正常像と病態像を説明する。 ・摂食嚥下機能障害者に対する臨床的アプローチの手段を説明する。 ・摂食嚥下障害の病態像や疾患を取り巻く社会状況に関する新たな知見について説明する。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>記述式試験 90%、講義途中で課すレポート等課題の達成度 10%</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>プリント等を配布する。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>摂食嚥下リハビリテーション（才藤栄一・植田耕一郎監修）医歯薬出版</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	摂食嚥下障害概要	(井上) 摂食嚥下とは, 摂食嚥下障害が目されることとなった社会背景など	準備: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下, 解剖, 生理等)の知識の整理.	40分
2	摂食嚥下機能の神経・筋	(井上) 摂食嚥下機能に関わる神経解剖	準備: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下, 解剖, 生理等)の知識の整理.	40分
3	摂食嚥下機能の中核制御	(井上) 摂食嚥下機能を支える中枢メカニズム	準備: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下, 解剖, 生理等)の知識の整理.	40分
4	摂食嚥下障害の原因と病態	(井上) 摂食嚥下障害の原因疾患総論	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理.	40分
5	摂食嚥下障害の検査と評価	(井上) 摂食嚥下障害の診断に必要な検査とその方法.	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
6	摂食嚥下リハビリテーションとは	(井上) 摂食嚥下リハビリテーションの内容	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
7	摂食嚥下障害へのチームアプローチ	(井上) 摂食嚥下リハビリテーションに必要なチームアプローチと各職種役割	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
8	加齢に伴う摂食嚥下機能の変化	(井上) 加齢に伴う摂食嚥下機能の減退	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
9	脳血管疾患による摂食嚥下障害	(井上) 脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
10	神経筋疾患と嚥下障害	(井上) 神経疾患に伴う摂食嚥下障害	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
11	消化器疾患と摂食嚥下障害	(真柄) 消化器疾患に伴う摂食嚥下障害	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
12	頭頸部腫瘍と摂食嚥下障害	(真柄) 頭頸部腫瘍に伴う摂食嚥下障害	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
13	呼吸器疾患と摂食嚥下障害	(辻村) 呼吸機能と呼吸器疾患に伴う摂食嚥下障害	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
14	小児の摂食嚥下障害	(辻村) 小児(発達障害, 先天異常)の摂食嚥下障害	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分
15	摂食嚥下障害に対する治療戦略	(井上) これからの摂食嚥下リハビリテーションの向かうべき方向	事後: これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理ならびに臨床への展開	40分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

摂食嚥下は奥が深く難しい領域ですが、一緒に頑張りましょう。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 口腔咽喉頭機能学	【担当教員】 氏名 山村千絵 [研究室] E棟1階学長室
【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目	[メールアドレス] yamamura@nur.ac.jp
【授業コード】 D 102	[オフィスアワー] 月～金 9:30～17:00 の間の在室時
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》 口腔・咽頭・喉頭領域の解剖・生理を中心に、これまでの知識を復習するとともに、摂食嚥下に関連した専門科目を学ぶために必要となる高度な内容へと発展させていきます。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》 少人数で双方向型の授業を展開します。授業には積極的に参加しましょう。</p>	
<p>【講義概要】 摂食嚥下機能に関連した頭頸部・顔面・口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を中心に講義する。また、摂食嚥下の神経機構や、咀嚼に関連する味覚や唾液分泌の生理について講義する。さらに、研究者として不可欠なクリティカルシンキング（自律的に能動的に考える能力と態度、自分なりの意見を持ち、建設的・積極的に思考すること、物事を論理的に批判的に捉えて思考すること）を鍛えるために、関連領域の論文を抄読する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体機能、特に口腔機能を科学的視点で捉えるために、それぞれの機能発現における神経系の仕組みを理解する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下機能に関連した、口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を詳細に説明できる。 ・摂食嚥下の神経機構について最近の知見も含めて説明できる。 ・味覚や唾液分泌のしくみを説明でき、臨床的トピックスと関連付けて考察できる。 ・関連領域の論文を客観的に理解し評価することができる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>記述式試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度20%</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>特に指定しない、プリント等を配布する。</p>	
<p>【指定図書・参考書】（基礎知識を得るための予習用）</p> <p>金子芳洋（訳）摂食・嚥下メカニズム UPDATE 構造・機能からみる新たな臨床への展開 医歯薬出版 2006年 ¥5,832</p> <p>才藤栄一（監）摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版 2016年 ¥8,208</p> <p>山田好秋（著）よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版 医歯薬出版 2013年 ¥4,536</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	関連領域のトピックス	聴講学生に合ったテーマのトピックス紹介と討議	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下、解剖、生理等）の知識の整理。	60分
2	口腔・咽頭・喉頭の構造と機能	口腔・咽頭・喉頭の解剖と生理 ～一歩進んで…～	事後：学修した内容の復習と臨床への展開を考える。	60分
3	咀嚼運動	咀嚼運動の仕組み、神経性制御 最近の知見	事後：学修した内容の復習と臨床への展開を考える。	60分
4	味を感じる仕組み・味覚障害	味覚受容機構、味覚の意義、おいしさとは、味覚障害の種類 臨床的トピックス	事後：学修した内容の復習と臨床への展開を考える。	60分
5	嚥下運動	嚥下運動の仕組み、神経性制御 最近の知見	事後：学修した内容の復習と臨床への展開を考える。	60分
6	歯・口腔・顎・顔面の診察法	歯・口腔・顔面の症状の表現方法 歯・口腔・顔面の診察法	事後：学修した内容の復習と臨床への展開を考える。	60分
7	唾液の働きと分泌機構	唾液の生理的機能、分泌機構 唾液を使って行う各種検査 臨床的トピックス	事後：学修した内容の復習と臨床への展開を考える。	60分
8	関連領域の論文抄読、論文の書き方	聴講学生が選択した興味ある論文の抄読 論文の書き方の基本	事後：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

生体の構造・機能は実に巧妙に美しくできています。驚きと感動をを知り、さらなる探究心を奮い起こしましょう。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 摂食・嚥下障害評価学	【担当教員】 氏名 倉智雅子 松村博雄 [研究室] E棟2階
【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目	[内線番号]倉智：310 松村：304
【授業コード】 Dh 103	[メールアドレス]倉智：kurachi@nur.ac.jp [オフィスアワー]倉智：在室時はいつでも可 松村：来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 2単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 15コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 摂食・嚥下コースの1年生必修。嚥下障害の基礎知識を持ち合わせ、評価法を学ぶ意欲のある院生であること 《受講のルールに関わる情報》 受講態度（ディスカッションへの積極的な参加など）が評価の対象となることを承知しておくこと。 講義中に配布された資料は、以降の講義にもできる限り持参のこと。	
【講義概要】 (オムニバス方式) 摂食・嚥下を評価する各種検査法／評価尺度について、実践的で具体的な方法を学ぶ。VF、VEなどの画像検査評価法では画像解析練習を行う。種々の検査評価法により解明された正常嚥下の理解を深め、正確な検査・評価を実施する力を養い、患者の総合的な情報収集・適切な目標設定と治療プログラムを導くための知識を身につける。 【一般教育目標(GIO)】 ・摂食・嚥下を評価する各種検査法／評価尺度について理解を深める。 ・各種評価法で得られる正常嚥下の特徴を正しく理解する。 【行動目標(SBO)】 ・各種嚥下評価法を用いての正常嚥下の動態や特徴がわかる。 ・各種嚥下評価法の長所・短所を把握し、目的にあった機器や検査法の選択ができる。 ・嚥下造影検査や内視鏡検査で得られた画像の解析ができる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート30%、クラス発表30%、授業中のディスカッションへの参加40%の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する	
【指定図書・参考書】 金子芳洋訳：摂食・嚥下メカニズムUPDATE 構造・機能からみる新たな臨床への展開。医歯薬出版、2006。¥5,400。 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会：嚥下内視鏡検査の手順2012改訂。日摂食嚥下リハ会誌16(3)：302-314, 2012。 (学会ホームページからPDFファイルダウンロード可能 http://www.jsdr.or.jp/doc/) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会：嚥下造影の検査法(詳細版) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会2014年度版。 日摂食嚥下リハ会誌18(2)：166-186, 2014 (学会ホームページからPDFファイルダウンロード可能 http://www.jsdr.or.jp/doc/) 熊本：脳解剖学：萬年 甫、原 一之 南江堂 1994 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム：馬場元毅 医学書院 2009	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション、 各種嚥下評価法(倉智)	科目の概要と今後の予定 クラス発表の分担決定 講義：各種嚥下評価法の特徴	次回講義に向け、配布された プリントに目を通す	30分
2	正常嚥下のバイオメカニズム(倉智)	講義：健常者の嚥下の生理	事後学修：講義ノートと資料 の復習	30分

3	嚥下造影検査画像解析①(倉智)	演習：画像解析演習（正常例）	準備学修：正常嚥下の動態	30分
4	嚥下造影検査画像解析②(倉智)	演習：解析結果報告とディスカッション	復習：正常嚥下の動態	30分
5	嚥下造影検査評価の手順(倉智)	講義：嚥下造影検査の考え方と実施手続き	準備学修：嚥下造影検査の手順のバリエーション	60分
6	嚥下造影検査：造影剤と放射線(倉智)	講義：造影剤の特徴と放射線の危険性	事後学修：講義の復習と関連文献閲覧 クラス発表準備	60分 20分
7	嚥下内視鏡検査(倉智)	講義：嚥下内視鏡検査の手順 演習：画像解析練習	準備学修：嚥下内視鏡検査について基礎知識を得ておく クラス発表準備	30分 20分
8	筋電図(倉智)	講義：筋電図で見る嚥下の特徴	復習：講義で配布された筋電図の論文を通読しておく クラス発表準備	60分 20分
9	感覚系の評価(倉智)	講義：嚥下の感覚系評価の現状	事後学修：講義で紹介された論文に目を通す クラス発表準備	60分 20分
10	超音波検査；嚥下圧検査(倉智)	講義：超音波検査と嚥下圧検査の特徴	事後学修：講義で紹介された論文に目を通す クラス発表準備	60分 20分
11	頸部聴診法；シチグラフィ(倉智)	講義：頸部聴診とシチグラフィによる評価の特徴	事後学修：講義で紹介された論文に目を通す クラス発表準備	60分 20分
12	クラス発表(倉智)	発表：プロセスモデルについて	準備：発表用スライドと原稿完成	90分
13	その他の評価(倉智)	講義：スクリーニング検査の意義と限界、患者のQOLに立った評価法、海外で使われている評価法など	事前学修：各種スクリーニング検査の特徴について再確認	60分
14	摂食・嚥下に関する中枢の役割(松村)	運動系伝導路	障害と臨床	60分
15	摂食・嚥下に関する中枢の役割(松村)	感覚（知覚）系伝導路	障害と臨床	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

種々の嚥下検査法／評価法について、提唱者の論文（原文）にまで遡って検討していきます。

<p>【科目名】 摂食・嚥下発達障害学</p>	<p>【担当教員】 岩田まな（客） [研究室] 非常勤講師室</p>
<p>【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 Dbh 104</p>	<p>[メールアドレス] [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 2単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 15コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>新生児から幼児にいたる子どもの発達に関する知識が必要である。発達の概略について復習して授業に臨むことを希望する。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>哺乳類は出生後まもなく乳汁を嚥下する。これは原始反射による運動であるが、その後固形物の摂取に至るまでの経過、口腔器官の発達について学習する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>生命維持にとって必要不可欠な栄養摂取の発達を学習し、さらに口腔器官がコミュニケーション手段としても発達していくことを研究する</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>食事摂取、食事介助についても学習を進める</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート70%、試験30%</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>小児の摂食嚥下リハビリテーション 第二版、 田角、向井編著 医歯薬出版</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	摂食・嚥下機能の発達 (健全発達)	胎生期から新生児期	テキスト 1 章を読んでおく	30 分
2 3、 4、 5 6	摂食・嚥下機能の発達 (健全発達)	乳児期から離乳期	テキスト 2 章を読んでおく	30 分
7 8 9 10 11 12 13 14	障害児の摂食・嚥下機能		テキスト「臨床編」 1 章から 7 章を読んでおく	30 分
15	まとめ	まとめ		30 分

【教員からの一言】

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】 摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）</p>	<p>【担当教員】 氏名 倉智雅子 松村博雄 木戸寿明（非） [研究室] E棟2階（倉智・松村），非常勤講師室（木戸）</p>
<p>【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目</p>	<p>[内線番号]倉智：310，松村：304</p>
<p>【授業コード】 Dbm 105</p>	<p>[メールアドレス]倉智：kurachi@nur.ac.jp [オフィスアワー]倉智：在室時はいつでも可 松村，木戸：来学時に対応</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】 《受講者に関わる情報》 頭頸部領域の解剖について、学部レベルの基礎知識を有していること。 《受講のルールに関わる情報》 受講態度が評価の対象に含まれるので、クラスでの積極的な質問や意見交換が望まれる。</p>	
<p>【講義概要】（オムニバス方式）</p> <p>摂食・嚥下障害に対して正しく訓練治療計画を立てるために、異常所見を見極める力、その背景にある障害（disorders）を解剖学的・神経学的・運動学的側面から同定する力を養う。また、口腔ケアに関する基礎知識と技能を身につけ、摂食・嚥下訓練・治療法（臨床）に向けての土台づくりをする。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの嚙弓（咽頭弓）性器官の変遷、転用、痕跡など形態形成の特徴をとらえて、摂食・嚥下に関する形態と機能を理解する。口腔ケアに必要な知識と技術を習得する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身の診療：バイタルサインの測定が速やかに行えるように相互実習を行う。摂食嚥下機能の評価を行う際の様々な手法を習得する ・口腔の診察：口腔内の観察の仕方や、歯科領域特有の専門用語での表現方法を体得する。さらに一般的な歯口清掃の仕方のみならず、高齢者障害のための口腔ケア実習として、義歯の取り扱い、口腔内清拭、舌の清掃、口腔乾燥のケア等について実施する。 ・顎顔面領域のレントゲン画像の見方についても練習する。診療報酬や介護報酬等についての演習を行う。 ・医療事故等の事例分析を行う。 ・医療事故等の事例分析を行う。 ・嚥下に関与する感覚系・運動系の解剖生理がわかる。 ・嚥下に関与する延髄や上位中枢の役割がわかる。 ・嚥下障害症例のビデオ画像解析ができる（演習）。 	
<p>【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 3人の担当者の評価を倉智50%、松村25%、木戸25%の割合で合わせて総合的に評価を行う。</p>	
<p>【テキスト・教科書】 倉智：プリントを配布予定 松村：プリントを配布予定 木戸：プリントを配布予定</p>	
<p>【指定図書・参考書】 倉智：特に指定なし</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション 嚥下の誘発(倉智)	科目の概要と今後の予定 講義とディスカッション	準備学修：正常嚥下の生理を 確認	40分
2	嚥下惹起の神経機構(倉智)	講義とディスカッション	準備学修：嚥下の解剖（特に 神経系）を復習しておく	40分
3	嚥下の異常所見(倉智)	講義と演習（嚥下障害患者のVF画像解 析）	準備学修：VFで見る嚥下の異 常所見を復習しておく	30分
4	演習結果についてのディスカッション (倉智)	ディスカッション：摂食嚥下障害例のVF 画像解析結果について	準備学修：演習を通して気づ いたことをディスカッション できるように準備しておく	60分
5	鰓弓性器官(松村)	咀嚼、哺乳、嚥下、発声の発生学	CGと機能模型	60分
6	摂食、哺乳、嚥下、発声(松村)	局所解剖学とその機能	器官の異常	60分
7	全身状態の評価(木戸)	バイタルサイン、摂食嚥下に関わる身体 機能評価	準備学習：臨床検査学の復習	60分
8	口腔の診察(木戸)	口腔内観察法と歯科専門用語、口腔ケア の理論と実際	準備学習：臨床歯科医学の復 習	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>摂食・嚥下障害の臨床研究や科学的根拠に基づく臨床を目指す人に役立つ情報が満載です</p>
--

【科目名】 摂食・嚥下訓練・治療法（臨床）	【担当教員】 氏名 倉智雅子 [研究室] E棟2階
【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目	[内線番号]310
【授業コード】 Db 106	[メールアドレス]kurachi@nur.ac.jp [オフィスアワー]在室時はいつも可
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）を受講していることが望ましい</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>摂食・嚥下訓練・治療法で学んだ嚥下の神経経路（感覚経路、運動経路）に関する配布資料やノートを参考資料として持参することが望ましい。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>これまでに提唱されている摂食・嚥下障害治療訓練法の成り立ちや目的、効能を詳細に検討する。さらに、患者ひとりひとりが“その人らしく食べられる”ようになるために、誤嚥性肺炎、口腔ケア、摂食・嚥下に適する姿勢や動作、発声発語機能、呼吸機能、高次脳機能、排泄等との関係にも目を向け、専門的な視点から、経管栄養を含めた摂食・嚥下治療計画の立案方法を習得する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下障害の各種治療・訓練法について、その特徴や効果を知り、臨床場面に応用できる ・個々の患者にあった治療訓練計画を科学的根拠に基づいて立案できる。 <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の病態を的確に判定できる。 ・現存する摂食・嚥下障害の治療訓練法の特徴や効果を述べるができる。 ・患者の病態に合わせた治療／訓練法の選択ができる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>クラス発表30%、レポート30%、受講／演習態度40%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会：訓練法のまとめ2014版. 日摂食嚥下リハ会誌18(1)：55-89, 2014. (学会ホームページからPDFファイルダウンロード可能 http://www.jsdr.or.jp/doc/)</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>才藤栄一, 植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版. 医歯薬出版, 2016. ¥7,600.</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション、 代償法	科目の概要と今後の予定 講義：代償用の位置づけと手技	準備学修：テキストから代償 法に相当するものを予習	40分
2	訓練法	講義：各種訓練法考案の背景、目的、対 象者、実施手続きなど	準備学修：テキストに目を通 す レポート準備	40分 60分
3	外科的治療	講義：嚥下機能改善術と誤嚥防止術につ いて	準備学修：参考図書で当該頁 を予習 レポート準備	30分 60分
4	薬物治療・鍼治療	講義：薬物治療と鍼治療の現状と今後の 展望	準備学修：薬物治療や鍼治療 に関する文献を検索してみる クラス発表・レポート準備	30分 60分
5	特殊な治療・訓練法、栄養管理	講義とディスカッション	クラス発表・レポート準備	60分
6	誤嚥性（嚥下性）肺炎、水分補給	講義：予防と対策、水分摂取の是非	クラス発表・レポート準備	90分
7	治療訓練計画立案	演習：治療訓練計画の立案練習	クラス発表・レポート準備	90分
8	クラス発表	提出するレポートの内容を発表	クラス発表・レポート準備	90分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
摂食・嚥下障害の訓練治療立案にあたり、‘考える’（科学的根拠を持つ）練習を徹底して行います。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 口腔介護	【担当教員】 木戸寿明 [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目	[内線番号]
【授業コード】 Dbh 107	[メールアドレス] 講義時に伝達 [オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》摂食・嚥下障害コースの学生は必修科目。高次脳機能障害コースの学生のうち、顎口腔領域の評価やリハビリテーションに関わる機会の多い言語聴覚士や、それらの領域に興味を持つ者は、選択することが望ましい。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>双方向型の授業です。積極的な態度、発言を求めます。また、社会歯科学的な観点から、口腔介護と現在の社会情勢等との関係も論ずるため、最低限の社会一般常識を有することが必須である。</p>	
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会において口腔介護がなぜ必要とされるのかを理解する。 ・口腔介護を理解し、実践するために必要な歯科の臨床解剖、臨床生理、歯科特有の用語、歯科疾患、補綴装置等を理解する。 ・加齢や、摂食嚥下障害をはじめとする歯・口腔・顎・頸・顔面部等の機能の障害により、日常生活に支障をきたした要介護者に対し、歯科の知識と技術を活用して対応するとともに、要介護者に対する対応法や日常生活の支援法についての知識を身につける。 ・いわゆる「フレイル」を理解し、フレイル対策としての口腔介護の役割を理解する。 ・医療介護連携、多職種連携の観点から、様々な連携の実際、問題点の把握を行う。 <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔介護の意義について理解するための医学的知識並びに社会的背景について理解する。 ・フレイルを理解し、フレイル対策としての口腔介護を理解する。 ・地域包括ケアにおける口腔介護の役割を理解する <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔介護に必要な歯科的観点、歯科的専門用語を用いて、その意義について説明ができる。 ・口腔介護の地域社会での役割について説明ができる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 口頭試問 50% 講義途中での課題の達成度 50%</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>プリント等を配布する</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>歯科衛生士のための口腔介護実践マニュアル メディカ出版 2012年 ¥2,800</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外標準学修時間(分)
1	口腔介護が求められる社会的背景	超高齢社会における医療供給体制	人口動態等社会情勢の把握	30分
2	要介護者の理解	身体的精神的特徴、原因疾患と口腔の関係	学習した内容の復習	40分
3	口腔の臨床解剖と臨床生理	摂食嚥下に関わる構造と機能	解剖学、生理学の復習	40分
4	歯科疾患と補綴装置	歯科の専門用語、疾患の理解、補綴装置の理論と実際	臨床歯科医学の復習	40分
5	要介護者の口腔に関わる諸問題	口腔疾患、摂食嚥下障害の実際	前期に学ぶ摂食嚥下障害学の復習	40分
6	口腔健康管理について	口腔衛生管理、口腔機能管理の実際	口腔ケアに関する情報収集	40分
7	フレイルとは	フレイルについて、オーラルフレイル	文献的考察	40分
8	多職種連携、地域包括ケア	チームによる医療介護連携の実際	一般的な介護保険制度等の把握	40分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

担当教員は歯科医師であり、日々訪問歯科診療、地域での他職種との連携業務等に携わっています。口腔介護を通して、個々の患者さんにどのようにお役に立てるのか？また、社会全体に対してどのような役割を担えるのか？講義を通して理解し、将来の臨床現場での活躍につなげて頂ければと考えています。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 摂食・嚥下食品・栄養学	【担当教員】 山村千絵 [研究室] E棟1階学長室
【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目	[メールアドレス] yamamura@nur.ac.jp
【授業コード】 Dbh 201	[オフィスアワー] 月～金 9:30～17:00 の間の在室時
【配当年】 2年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 摂食・嚥下障害コースの学生は必修科目。高次脳機能障害コースの学生のうち、高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、疾病がある方の食事場面や栄養評価に関わる機会のある言語聴覚士等の職種の者や、それらの領域に関心を持つ者に選択してほしい。 《受講のルールに関わる情報》 授業には問題意識を持って、積極的に参加しましょう。	
【講義概要】 高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、さらには疾病がある方の栄養管理には、個々人の機能に着目しつつ適切に栄養を摂取するように見守ることと、QOLを向上させることが重要である。そこで、対象者の身体機能や栄養状態の変化を考慮しつつ、誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア、嚥下調整食や嚥下訓練食品の栄養評価・おいしさ評価・物性評価、さらには経管栄養や半固形栄養などについて論ずる。また、食事援助を行う対象者へ向けた食の考え方や工夫について論ずる。 【一般教育目標(GIO)】 リハビリテーション領域の専門知識・技術と本講義内容が、臨床現場において両輪となり、対象者の健康維持ならびに介護予防に貢献できる。 【行動目標(SBO)】 高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、さらには疾病がある方の食生活を栄養面、食品面および調理面からも科学的に評価できる。 臨床現場における栄養サポートチームの一員としての役割が果たせるようになる。 具体的な栄養評価、栄養プログラムの計画ならびに目標設定が行えるようになる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 記述式試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度20%	
【テキスト・教科書】 特に指定しない、プリント等を配布する。	
【指定図書・参考書】 日本摂食嚥下リハビリテーション学会（編）「摂食・嚥下障害患者の栄養」医歯薬出版 2011年 ¥3,132 藤谷順子他（編）臨床栄養別冊 摂食嚥下障害の栄養食事指導マニュアル 医歯薬出版 2016年 ¥4,104	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	高齢者の身体機能と栄養評価	加齢による身体機能の変化 栄養評価	準備：1年次に学んだ摂食・ 嚥下障害学総論の復習。	60分
2	高齢者の口腔機能と口腔ケア	高齢者の口腔機能 誤嚥性肺炎 口腔ケア	事後：学修した内容の復習と 臨床への展開を考える。	60分
3	摂食嚥下機能が低下した方の咀嚼と 食物形態 嚥下調整食・嚥下訓練食品	QOLを下げない食事 何をどれだけ・どのように食べたらよいか	事後：学修した内容の復習と 臨床への展開を考える。	60分
4	おいしさ評価 物性評価	摂食行動における味覚の重要性 テクスチャーの評価法	事後：学修した内容の復習と 臨床への展開を考える。	60分
5	高齢者の経管栄養と半固形栄養	経管栄養とその問題点 半固形栄養法の実際	事後：学修した内容の復習と 臨床への展開を考える。	60分
6	高齢者の疾病と栄養ケア	糖尿病ケア 腎機能障害と栄養ケア	事後：学修した内容の復習と 臨床への展開を考える。	60分
7	終末期治療と倫理問題	末期患者への栄養サポートと倫理問題	事後：学修した内容の復習と 臨床への展開を考える。	60分
8	がん患者の栄養と補完代替医療	がん患者の栄養評価 がん医療における補完医療	事後：学修した内容の復習と 修士研究への展開を考える。	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
臨床現場で対応する患者様や高齢者などを思い浮かべながら聴講して頂くと、理解も深まります。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 摂食・嚥下障害ケーススタディ・研究法	【担当教員】 氏名 倉智雅子 [研究室] E棟2階
【授業区分】 摂食・嚥下障害コース開講科目	[内線番号]310
【授業コード】 D 202	[メールアドレス]kurachi@nur.ac.jp [オフィスアワー]在室時はいつも可
【配当年】 2年次	【単位数】 2単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 15コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 摂食・嚥下コース2年次の学生が対象 《受講のルールに関わる情報》 講義には、テキストを持参すること。	
【講義概要】 「食べる」は極めて日常的な行動ですが、その障害や問題行動を目の当たりにしたときに初めて考えるものです。「食べる」は本能なのか？と。食行動を把握する一つの観点として、生理的要因、認知的要因、物理的・化学的要因、及び文化的・社会的要因という窓があります。それらの窓から、様々な原因疾患症例（例えば、高齢者や認知症/精神障害者、頭頸部腫瘍術後例など）の食の特徴及び問題点を概説していきます。さらに、症例を通して感じた疑問やテーマを研究に移せるように摂食嚥下領域で用いられる研究手技について紹介します。	
【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・近年の知見から、摂食・嚥下障害の研究法を学ぶ。 	
【行動目標(SB0)】 <ul style="list-style-type: none"> ・異なる病態/症状を呈する症例に対し、多面的なアプローチができる。(例えば少食のケースの場合、単に栄養補助食品を提供するだけでなく、何故おなかが空かないのだろう？と考え、対策を講ずることができる。食品のもつ色、味、臭いや舌触り等が、誰もが同じに感ずるのか？ 病前または若い頃と同じに感ずるのか？と、思いを馳せることができる。) ・摂食・嚥下に関連する研究手法に親しむ。 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 クラスディスカッションへの参加態度と貢献度 50%、レポート 50%	
【テキスト・教科書】 里宇明元・藤原俊之 監修：ケーススタディ摂食・嚥下リハビリテーションDVD付 50症例から学ぶ実践的アプローチ。医歯薬出版，2008。 ¥5,200 (購入は不要。講義の開始日までに各自、図書館で借りておくこと。)	
【指定図書・参考書】 野崎園子・市原典子 編著：DVDで学ぶ神経内科の摂食嚥下障害。医歯薬出版，2014。 ¥7,400	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション、 脳血管障害による摂食・嚥下障害	科目の概要と今後の予定 講義と症例検討 (画像評価含む) (倉智)	事後学修：講義ノートとテキスト 当該章の復習	60分
2	リハビリ*症候群の摂食・嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含む) (倉智)	準備学修：テキストの当該章を予 習 レポート準備	30分 30分
3	神経筋疾患による摂食嚥下障害：原因疾患 と嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予 習 レポート準備	30分 30分
4	ALSとパーキンソン病の摂食・嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予 習 レポート準備	30分 30分
5	頭頸部腫瘍による摂食・嚥下障害：口腔・咽 頭癌、喉頭癌	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予 習 レポート準備	30分 30分
6	頭頸部腫瘍による摂食・嚥下障害：頸部郭 清術と喉頭全摘頭	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予 習 レポート準備	30分 30分
7	気管切開・ニューレ装用、人工呼吸器装着症例 の摂食・嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予 習 レポート準備	30分 30分
8	頸椎損傷による摂食・嚥下障害、薬と摂食・ 嚥下障害、ターミナルケア	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予 習 レポート準備	30分 30分
9	高齢者の食行動と摂食嚥下障害 (老嚥、フレイル、サルコペニア)	講義と症例検討	予習：加齢による嚥下機能の変化 を確認しておく	30分
10	認知症、精神疾患と摂食嚥下障害	講義と症例検討	予習：認知症の定義を確認しておく	30分
11	食支援とコミュニケーション	講義と症例検討	予習：「話す機能」と「食べる機能」 の双方向的な関わりを確認し ておく	30分
12	嚥下に関係する口腔、咽頭、喉頭の構造と 神経支配の特徴	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレ ポート準備	60分
13	嚥下反射を惹起する部位と刺激方法に関 する研究法	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレ ポート準備	60分
14	嚥下惹起に影響する因子に関する研究法	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレ ポート準備	60分
15	のどごしのおいしさに関する研究法	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレ ポート準備	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
<p>ディスカッションに積極的な参加を望みます。 自身の食べる行為・運動をありのままに思い浮かべ、感ずることができ、目の前にいる摂食嚥下障害者の食行動を的確に観察できるようになってください。問題点が把握されれば、対処法は自ずと考えることができるようになるでしょう。</p>

